

(仮称) 産業ミュージアム基本構想・基本計画（素案）



令和7年11月
板 橋 区

目次

第1章 （仮称）産業ミュージアム基本構想・基本計画の策定背景

1 策定目的	1
2 本構想・計画の位置づけ	1
3 産業ミュージアムを取り巻く資源・価値	2
4 本構想・計画の方向性を導くストーリー	6

第2章 （仮称）産業ミュージアム基本構想

1 基本理念・基本コンセプト	9
2 方向性・主要機能	10

第3章 （仮称）産業ミュージアム基本計画

1 本計画の基本的な考え方と基礎情報	13
2 ソフト事業計画	24
3 施設計画	41
4 多様な主体との連携	46
5 オープンまでのスケジュール	48

資料編

- 参考資料1 第29回いたばし産業見本市における区民意見
- 参考資料2 パブリックコメント
- 参考資料3 （仮称）産業ミュージアム基本構想・基本計画検討会
- 参考資料4 建造物の変遷
- 参考資料5 板橋区産業のあゆみ

第1章



基本構想・基本計画の策定背景

1 策定目的

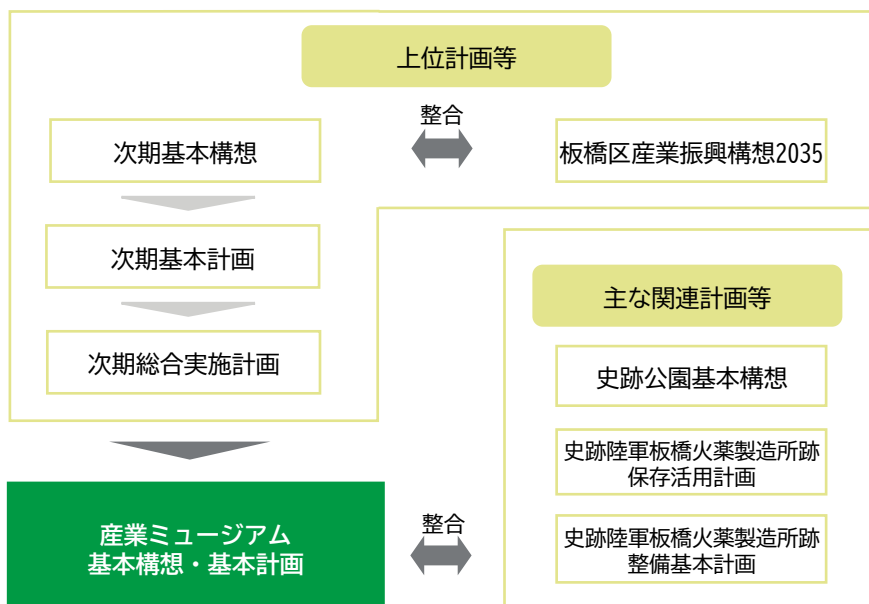
板橋区では、平成29年8月に「板橋区史跡公園（仮称）基本構想*1」を策定しました。同構想では、板橋区史跡公園（仮称）（以下「史跡公園」という。）の整備と歩調を合わせながら、史跡公園の整備予定地に現存している旧理化学研究所板橋分所（以下「旧板橋分所」という。）の建造物を活用し、「（仮称）産業ミュージアム（以下「産業ミュージアム」という。）」に整備していくことが示されています。

産業ミュージアムの整備にあたっては、旧板橋分所の建造物が持つ文化財的価値・歴史的ストーリーに加えて、今後の板橋区産業の方向性及び整備予定地の現況等を念頭に置きながら、**板橋の産業ブランドの向上に資する**産業ミュージアムの基本理念・コンセプト・具体的な機能等を整理していく必要があります。

令和7年度では、学識経験者、区民や関係団体等の意見を聴きながら、「**産業ミュージアム基本構想・基本計画**（以下「本構想・計画」という。）」を策定し、令和11年度中のオープンに向けて、計画的に産業ミュージアムの整備を進めていきます。

2 本構想・計画の位置づけ

「次期基本計画」や「板橋区産業振興構想2035」等の上位計画に加え、史跡公園の整備に係る関連計画等との整合性を図りながら、本構想・計画を策定します。



*1 板橋区史跡公園（仮称）基本構想

(https://www.city.itabashi.tokyo.jp/res/projects/default_project/page/001/032/408/kihonkoso.pdf)

3 産業ミュージアムを取り巻く資源・価値

(1) 整備予定地の立地環境

史跡公園の整備予定地は、板橋区の南東部にあたる加賀1丁目7・8番地に位置しています。「現・加賀公園エリア」「旧・火薬製造所エリア」「旧・理化学研究所エリア」に分かれており、平成29年10月、国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」に指定されました。

産業ミュージアムとして整備する旧板橋分所の建造物については、石神井川北側の旧・理化学研究所エリアに立地しており、自然と調和した桜並木と遊歩道に面しているのが魅力の1つとなっています。

「史跡陸軍板橋火薬製造所跡整備基本計画（令和3年3月）」でも示されているとおり、産業ミュージアムの整備は、旧・理化学研究所エリアに立地している旧板橋分所の建造物のうち、「爆薬理学試験室」と「物理試験室」を対象としています。

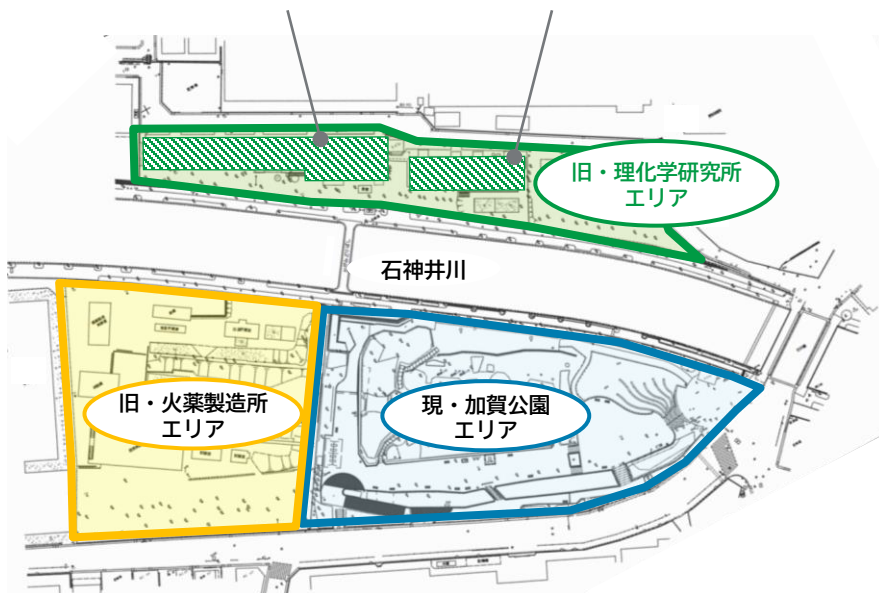


- ・都営三田線「板橋区役所前」駅 徒歩15分
「新板橋」駅 徒歩10分
- ・JR埼京線「十条」駅 徒歩15分
「板橋」駅 徒歩15分
- ・国際興業バス「東板橋体育館入口」徒歩5分

物理試験室



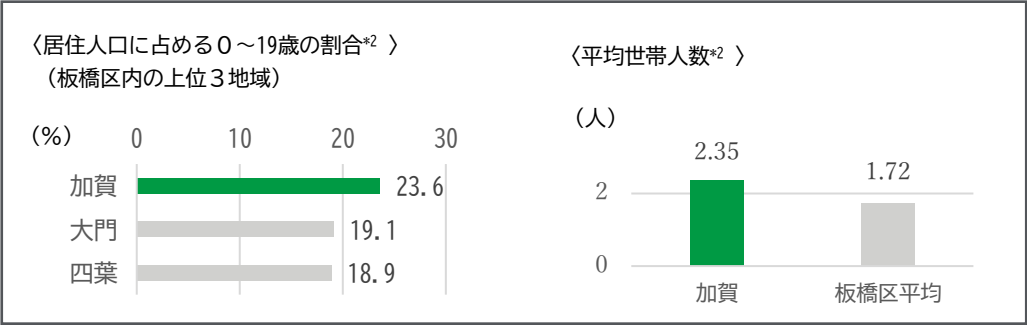
爆薬理学試験室



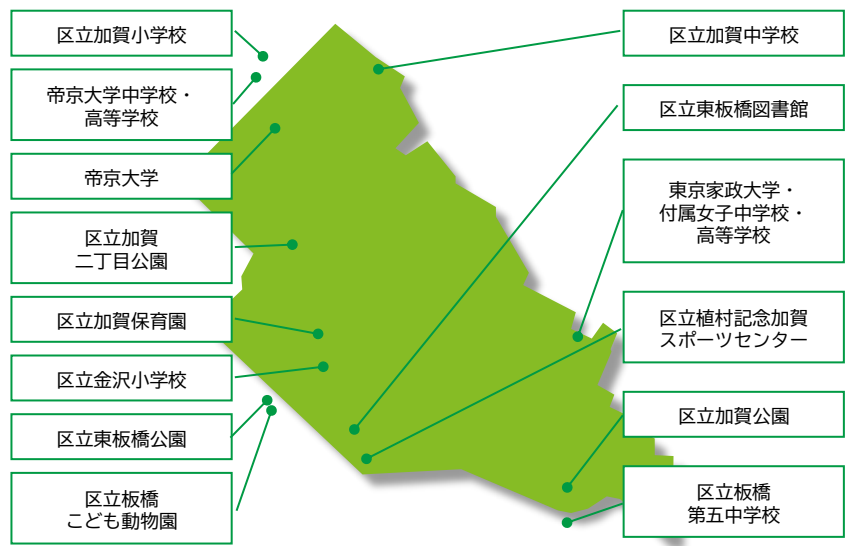
加賀地域は、多くの教育施設と公共施設があり、居住人口に占める0～19歳の割合が区内で最も高いエリアです。

また、平均世帯人数を比較してみると、板橋区平均が約1.7人であるのに対し、加賀地域は約2.4人となっています。居住人口に占める0～19歳の割合も踏まえると、板橋区の中でもファミリー層が集積していることが特徴といえます。

史跡公園の整備予定地周辺には、陸軍造兵廠の遺構等の近代化遺産群が点在しているとともに、史跡公園の外周を走る旧中山道沿いには、仲宿商店街や板橋宿不動通り商店街等の賑わい空間も存在しています。



〈加賀地域周辺の主な文教施設〉



【出所】*2：「板橋区年齢別人口表令和7年8月1日」（板橋区） 各地域の丁目以降の合計を用いて算出

(2) 整備予定地の変遷

産業ミュージアムの整備予定地を含めた板橋区の南東部に位置する加賀地域一帯は、明治9年から昭和20年の終戦まで、近代的な火薬製造所及び研究所が設置されていたことから、その建造物や遺構が群として残っています。また、戦後復興期の旧板橋分所では、日本の科学技術の進歩に向けた基礎研究が継続的に行われ、先進的な科学技術研究の拠点にもなりました。

平成29年8月に策定した史跡公園基本構想では、当地が有する歴史的背景をはじめとした資源・価値に着眼し、近代化遺産を中心とする都内初の「史跡公園」として保存・活用を行うものとし、「板橋の歴史・文化・産業を体感し、多様な人々が憩い、語らう史跡公園」を基本コンセプトとして定め、“憩う”“学ぶ”“創る”を基本方針のキーワードとして示しています。

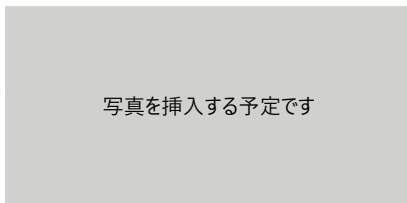
戦前



「陸軍造兵廠火工廠絵はがき」
火工廠板橋火薬製造所
《所蔵：北区立中央図書館》

- ・江戸時代に加賀藩下屋敷が置かれたこの地に、明治政府が初の近代的な火薬製造所を設置したことが契機となり、周辺の東京北西部には光学兵器を製造する多数の軍需工場群が形成されました。
- ・残存している建造物には、爆薬の取り扱いに適した構造も認められ、文化財的価値を保有しています。

戦後



写真を挿入する予定です

昭和24年に撮影された
理化学研究所板橋分所の様子

- ・陸軍解体に伴って火薬製造所の稼働が終了した後、その跡地には現在の公益財団法人野口研究所が入所したほか、理化学研究所「板橋分室（後の「板橋分所）」」が開設されました。
- ・特に板橋分室では、仁科芳雄が宇宙線研究を展開するとともに、湯川秀樹といったノーベル物理学賞受賞者が研究室を構える等、日本の先進的科学技術の研究拠点として研究成果が世界に発信されました。
- ・戦前に集積した光学産業は平和産業として発展し、「ものづくりの板橋」を形作る原動力の1つとして寄与しました。

近年



史跡公園の整備イメージ

- ・区は平成29年8月、史跡公園基本構想を策定し、史跡公園の整備に向けた取組を推進しています。
- ・近代的な火薬製造所と研究所の歴史的価値が認められ、加賀公園、旧野口研究所、旧板橋分所の敷地が同年10月、国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」に指定されました。

(3) 板橋区産業の現況と将来像

板橋区は工業専用地域を持つ都内有数の工業都市であるため、ものづくり企業が集積しており、製造品出荷額等では、23区内においても上位を占める業種が数多くあります。加えて、区内全域に商業が広っており、都内で貴重な農地も保有している等、多様な産業が共存しているのが特色です。

特に、「陸軍板橋火薬製造所」の設置を契機に集積が進んだ光学・精密機器産業は、区の地場産業として高い技術力を誇っています。また、交通網が充実しており、多くの物流拠点があることも強みです。

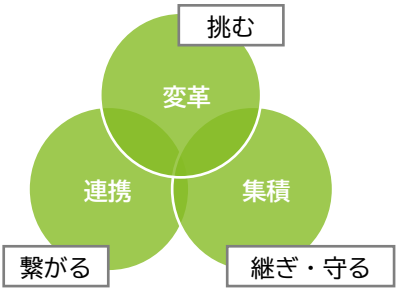
板橋区で策定中の「板橋区産業振興構想2035」では、「変革」「連携」「集積」を基本的な視点として成長志向の産業育成に取り組んでいくことが示されていますが、2035年の新たな将来像はブランド創造に着眼し、「新たな発見に出会える、ブランド創造都市」が掲げられています。

これを踏まえ、板橋区は、新たなひとや技術等との出会いを通じて多くのイノベーションが創出される「ひととひとがつながることで産業が成長するまち」というブランドを確立していくことを目指しています。

〈板橋区における製造品出荷額等上位5業種の23区内における順位*3〉

業務用機械器具製造業（光学・精密機器産業含む） 23区中第1位			
印刷・同関連業 23区中第1位	食料品製造業 23区中第2位	鉄鋼業 23区中第2位	化学工業 23区中第3位

「板橋区産業振興構想2035」*4で掲げる
基本的な視点と将来像



2035年の将来像	新たな発見に出会える、ブランド創造都市
-----------	---------------------

【出所】*3：「2023年経済構造実態調査（製造業事業所調査）」（総務省、経済産業省）

*4：「板橋区産業振興構想2035」は令和7年7月現在、策定中

4 本構想・計画の方向性を導くストーリー

第1章より、**加賀地域で戦前・戦後・近年まで紡いできた歴史**と、その歴史に紐づく**板橋区産業の発展や先進的な科学技術研究等の有形・無形の創造の軌跡**こそが産業ミュージアムを取り巻く資源・価値であると捉えています。

	加賀藩下屋敷 (1679年～1871年)	火薬製造所・研究所 (1876年～1945年)	理化学研究所 (1946年～2015年)	未来 (2029年～)
歴史背景	 於平尾御屋敷大砲鑄造之図 《個人蔵》	 「陸軍造兵廠火工廠絵はがき」 火工廠板橋火薬製造所 《所蔵：北区立中央図書館》	写真を挿入する予定です ガイガー・ミュラー計数管式 宇宙線計による測定	 史跡公園の整備イメージ
主な取組	・ 藩主と家族の保養の場 ・ 大砲鑄造 ・ 博物学・園芸学洋学の実践の場	・ 火薬の研究 ・ 火薬の製造	・ 宇宙線の連続観測 ・ 基礎物理学の研究	研究のバトンを未来へ 継ぎ・つなげる
与えた影響	・ 加賀藩の発展	・ 軍需産業の発展 ・ 板橋区産業の発展 (「工都板橋」の淵源)	・ 基礎物理学の発展 ・ 日本の科学技術の発展を担う研究者の育成と輩出	未来への産業の発展・人材の育成に挑む

第2章



(仮称) 産業ミュージアム基本構想

1 基本理念・基本コンセプト

第1章の「4 本構想・計画の方向性を導くストーリー」より、「研究のバトンを未来へ継ぎ・つなげる」「未来への産業の発展・人材の育成に挑む」という視点を導きました。この視点を踏まえて本構想・計画を策定することとし、以下のとおり産業ミュージアムの基本理念・基本コンセプトを定めます。

産業ミュージアムの基本理念・基本コンセプト

基本理念	当地の歴史に紐づく区産業の発展や研究の軌跡の発信と体験を通じて板橋の産業ブランド*5を向上させるとともに次世代の産業を担う人材や理系人材を育む拠点とする
基本コンセプト	— 加賀の歴史が紡ぐ、創造と知の起点 — ・ これまで知られてこなかった加賀の歴史を学び、未来を創造する場所 ・ 好奇心を呼び起こし、探求と研究のバトンを未来につないでいく場所 ・ 「ひと」と「ひと」とのつながりを生み出し、新たな挑戦がはじまる場所

いたばし産業見本市ワークショップ、
史跡公園ツアーなどの写真を掲載

*5 板橋の産業ブランド
板橋区産業全体で醸成するブランド。「板橋区は歴史に紐づいて産業が発展・集積し、区民生活を支えてきている」ことや「板橋区ではひととひとがつながることで産業が成長していく」等の産業全体の魅力や価値を発信することで、区内外の認知度向上や区内に訪れる新たなひとの動きをつくるもの。

2 方向性・主要機能

第1章より、「ものづくりの板橋」を形作る原動力の1つとなった**産業の側面**、江戸時代から近代まで続く加賀藩下屋敷の地で紡いできた**文化と歴史の側面**、日本の先進的な科学技術の研究者を育成・輩出してきた**教育の側面**において、**着目すべき歴史的背景**を捉えています。

また、基本理念と基本コンセプトを踏まえて、これまで紡いできたものを**継ぎ・守る**とともに、**新たな挑戦・創造**に取り組んでいくことが重要です。

整備する旧板橋分所の建造物の歴史的価値を未来に向けて保存していくということを大前提としつつ、以下のとおり産業ミュージアムの方向性・主要機能を定めます。

産業ミュージアムの方向性・主要機能

着目する 歴史的背景	・板橋区産業が発展する契機の一つとなった「工都板橋」の淵源 ・近世から現代に至るまで最先端の研究・実用化が行われた地域	・加賀藩前田家の下屋敷の一部であった地 ・近代的な火薬研究所時代の痕跡 ・理研研究者が研究を重ねた足跡	・ノーベル物理学賞受賞者の研究室 ・先進的な科学技術研究が展開された日本物理学界の中心地
3つの 方向性	① 産業の創造	② 歴史・文化の発信	③ 教育の深化
	ものづくりを中心とした板橋区の研究・創造の起点の場として、区産業の価値を高めていく	日本の産業や科学技術の発展に貢献したこの地の歴史に触れる場をつくることで、シビックプライドの醸成を図っていく	科学技術の研究の面白さと難しさを自由な発想や実践的な学びで体験し、将来の科学技術を支える人材を育ていく
主要機能	ものづくり板橋の産業ブランドを向上させる機能	活用する建造物の文化財的価値を守りながら、歴史を発信する機能	次世代の理系・ものづくり人材の育成機能

第3章



(仮称) 産業ミュージアム基本計画

1 本計画の基本的な考え方と基礎情報

（1）基本方針

本計画は、第2章の基本構想で示した内容を踏まえ、産業ミュージアムで実施する事業の方向性、建造物や空間の活用方針等を定めることで、基本理念で掲げる「板橋の産業ブランドを向上させるとともに、次世代の産業を担う人材や理系人材を育む拠点」に整備することを目的として策定します。

「板橋区次期基本構想」では、区の将来像として「未来をひらく緑と文化のかがやくまち”板橋”」と掲げ、将来像が実現されたまちのすがたを「誰もが幸せを実感している」、「つながりと愛着がはぐくまれている」まちとし、将来像を実現するための計画として、「板橋区次期総合基本計画」及び、「板橋区次期実施計画」が定められます。また、「板橋区産業振興構想2035」では、「変革」「連携」「集積」を基本的な視点として成長志向の産業育成に取り組んでいくことが示されています。

本計画では、産業ミュージアムがこうした区の将来像の実現に寄与する施設となるよう、構想に基づく具体的な事業等の方向性について明らかにしていきます。

そして、板橋区が持つ地域資源を生かしながら、一人ひとりのアイデアや工夫が原動力となり、多様な組織が協力して新しい価値を生み出し、都市全体の魅力を高める「創造都市」の実現といった視点も視野に入れて整備を進めていきます。

なお、今後、本計画に基づき、建造物の内部デザインを検討した後、基本設計、実施設計を実施し、建築工事の施工につなげるための建築上の諸要件を明確にしていく予定です。

（2）記載範囲

本計画では、以下の事項について具体化することで、今後の設計や整備につなげていきます。

① ソフト事業計画

産業ミュージアムで実施するソフト事業を展開していくための基本的な考え方と方向性を明確にししながら、具体的な事業案について示していきます。

② 施設計画

産業ミュージアムとして整備する「爆薬理学試験室」と「物理試験室」の歴史的価値や旧板橋分所時代のエピソードにも触れながら、建造物の活用方針及び空間の活用イメージについて示していきます。

③ 多様な主体との連携

産業ミュージアムに関わる地域の各主体の役割と連携の方針について掲載します。

④ オープンまでのスケジュール

本計画の策定からグランドオープンまでのスケジュールについて示していきます。

(3) 整備の対象となる建造物の基礎情報

① 爆薬理学試験室



名 称	爆薬理学試験室
建築年代	13年（1938）
構 造	鉄筋コンクリート造平屋建 地下1階建

○ 建造物の用途（火薬研究所時代）

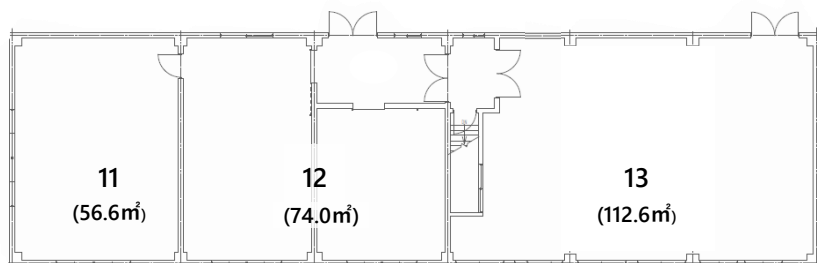
火薬研究所で、特に爆薬に関する実験が行われた施設

○ 建造物の特徴

建物北側には庇が4ヶ所設置されており、現在は壁になっている2ヶ所も含めて、庇が残る部分は出入口だった可能性があります。建物南側にはバルコニーが設置されています。現在1階からバルコニー方向への出入口はありませんが、従来は出入口があった可能性があります。

火薬を扱う軍事施設は、各部屋を独立させる仕様が多いため、この建物も同様の仕様だったことが考えられます。地下1階は天井が低く、石神井川に面して地面が意図的に掘り込まれています。南側に「仮置場」が面していることから、爆薬理学試験室での実験に使用する荷物を一時的に置く施設であったと考えられます。

○ 建造物内部の配置図 1階部分



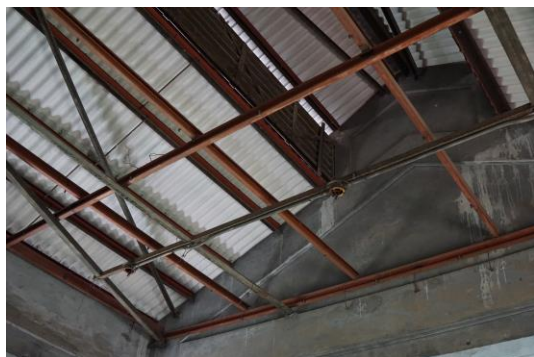
B棟

○ 内部の様子

11号室



12号室天井



地下



地下へ続く階段



南側から建造物を望む様子



② 物理試験室



名 称 物理試験室

建築年代 C 棟：昭和 12 年（1938）

D 棟：明治 40 年（1907）

E 棟：昭和 6 年（1931）

構 造 C 棟：鉄筋コンクリート造平屋建

D 棟：煉瓦造平屋建

E 棟：鉄筋コンクリート造平屋建

○ 建造物の用途（火薬研究所時代）

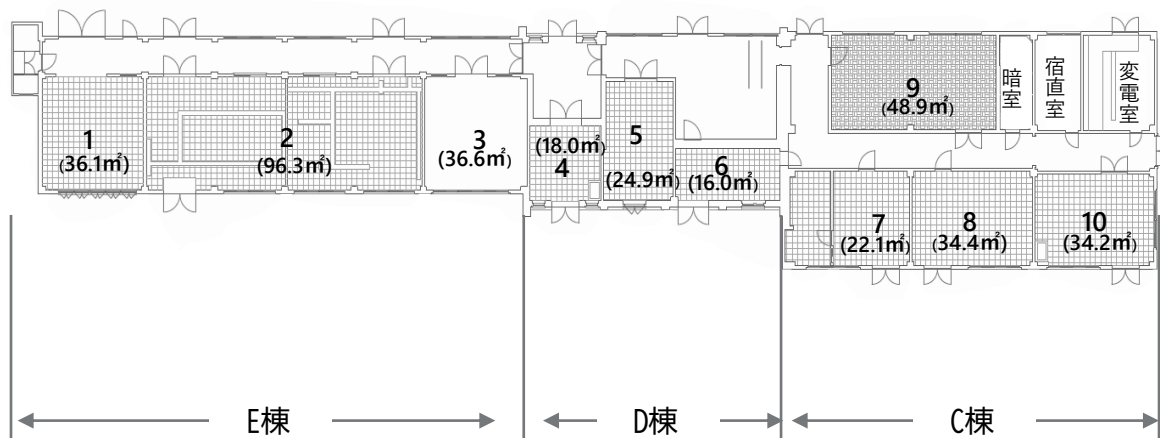
火薬研究所の研究棟として使用された施設。火薬の密度や粒度に関する物理試験を行っていた。

○ 建造物の特徴

建造物のD 棟は北側・南側とも煉瓦壁体の外観を持ちます。明治 40 年築と推定されており、史跡指定地内では最古の建物となります。D 棟の床には、電気軌道のレールが確認されますが、煉瓦壁に遮られています。電気軌道が私道の方に延びていたとすれば、北側の煉瓦壁体は後年の改変と考えられます。D 棟は当初、無煙火薬製造工程の光沢室（火薬に黒鉛で表面処理し、すべりをよくして装填性を向上させる場所）として使用されていました。D 棟は設置以来、何度か名称を変えていることが分かっており、大正 10 年（1921）時点では第三光沢室、昭和 9 年（1934）時点では仮置場、昭和 18 年時点では物理試験室、昭和 20 年終戦時は物理試験室と称されていました。

C 棟は中廊下型の配置をとり、E 棟は北側に廊下、南側に各室が配置されています。C 棟には旧板橋分所の時代において、湯川秀樹が使用していたとされる部屋があり、E 棟には電算機、宇宙線観測機器が設置されていた部屋が残っています。

○ 建造物内部の配置図



○ 内部の様子

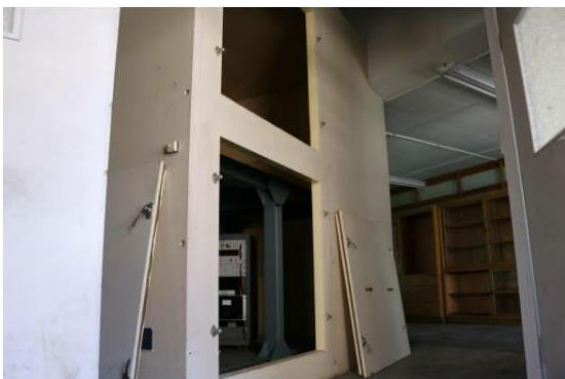
C棟 9号室



D棟 5号室付近



E棟2号室



E棟2号室

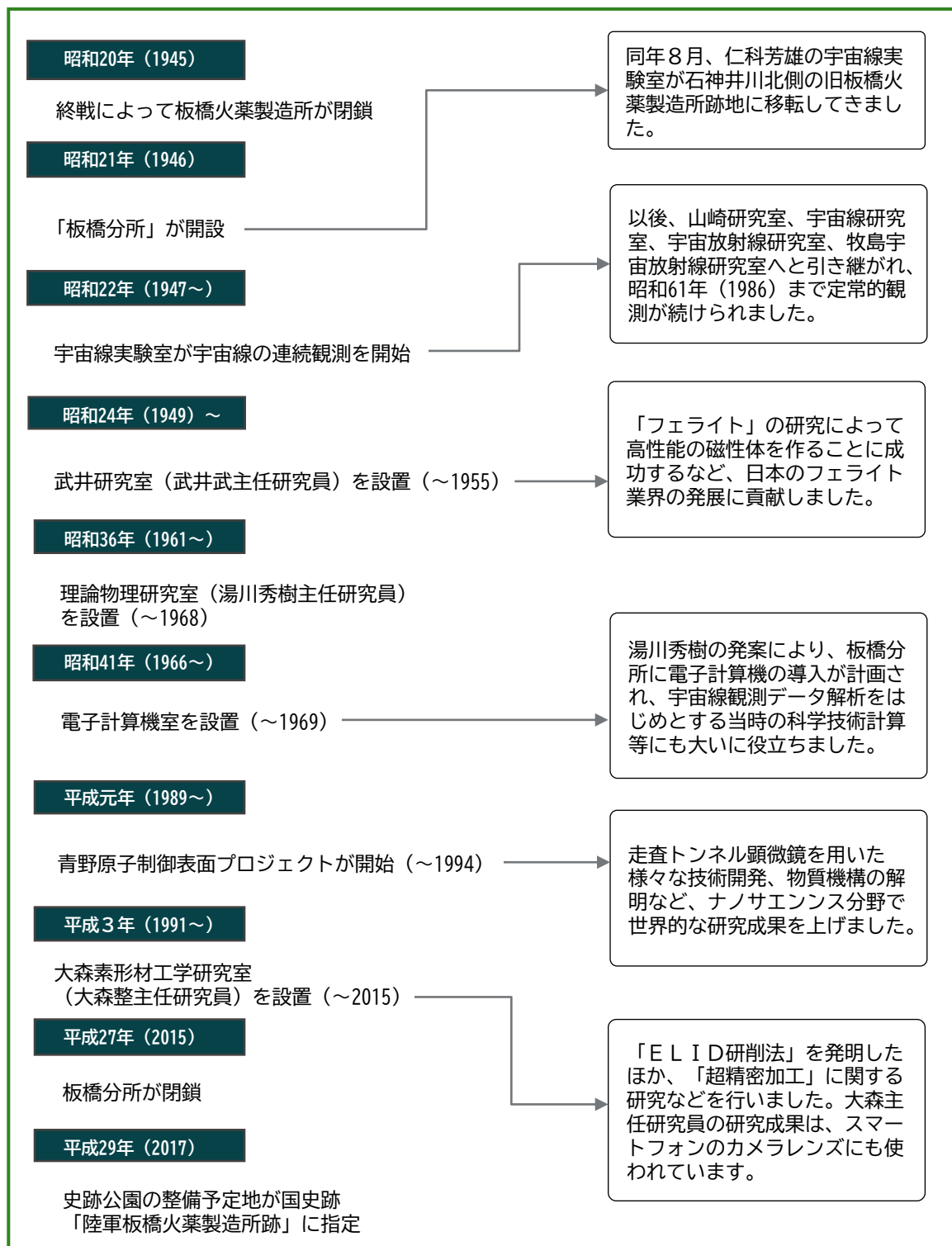


E棟廊下



(4) 旧板橋分所の歴史

戦前に火薬研究所として使用された爆薬理学試験室と物理試験室は、戦後、理化学研究所の分所となります。仁科芳雄や彼に学んだ湯川秀樹といったノーベル物理学賞受賞者を含む研究者たちによって宇宙線研究をはじめとする基礎研究が継続的に行われ、その研究成果が国内外に発信されました。



参考文献、出典：理化学研究所百年史

(5) 旧板橋分所に在籍した主な研究者たち

● 仁科 芳雄（在籍期間：1931～1951年）日本の宇宙線研究を始める

岡山県出身。東大を卒業後、コペンハーゲンなどに留学し、新しい学問分野であった「素粒子物理学」を学びました。

日本に帰国後、理研の主任研究員として、素粒子物理学の理論、実験、そして宇宙線観測の研究室を率い、室員から「オヤカタ」や「先生」と呼ばれて親しまれました。研究者たちが自由に議論し合える“コペンハーゲン精神”を再現しました。戦後は、占領政策下で厳しい状況に置かれた理化学研究所の4代目所長となり、GHQと折衝して旧板橋火薬製造所の跡地に、宇宙線研究室を入居させることに尽力しました。

● 宮崎 友喜雄（在籍期間：1939～1994年）研究室をのびのびと成長させる

東京都出身。北海道大学で中谷宇吉郎に学び、昭和41年理化学研究所の仁科研に入所。戦前には旧国鉄上越線清水トンネルでの宇宙線観測を行いました。

戦後、研究の現場から離れざるを得なかった仁科に代って、実質的に研究室の指揮を任されました。そんな困難な時期も仁科研伝統の自由な雰囲気を守り、のびのびとした研究室の環境により、宇宙線研究室の多角化が進みました。

● 和田 雅美（在籍期間：1943～1985年）連続観測への情熱

昭和18年自由学園高等科を卒業し、理化学研究所の仁科研に入所。戦時中は出征していましたが、戦後すぐに復職して、宇宙線研究室の中心的メンバーとなりました。

特に長期間にわたる宇宙線の「連続観測」に情熱を注ぎ、宇宙線計の制作や、データ解析などに励みました。また、板橋分所で働いた約40年間、ほぼ毎日つけていた日記を残し、研究室の歴史を克明に伝えています。

● 武井 武（在籍期間：1949～1955年）磁性素材を拓き産業を興す

埼玉県出身。1949年、武井研究室が板橋分室に併設され、酸化鉄を主成分とするセラミックスの総称であるフェライトの研究が進められました。その成果として、高性能の磁性体を作ることに成功し、フェライト磁石などを生み出しました。

これは、日本のフェライト業界の発展と国民生活の利便性向上に大きく貢献しました。フェライト磁石は、自動車のモーターや家電品、自動改札用切符や磁性クレジットカードの裏面など、現在も様々な場面で利用されるオリジナル研究成果となっています。

● 湯川 秀樹（在籍期間：1961～1968年）計算科学の礎を築く

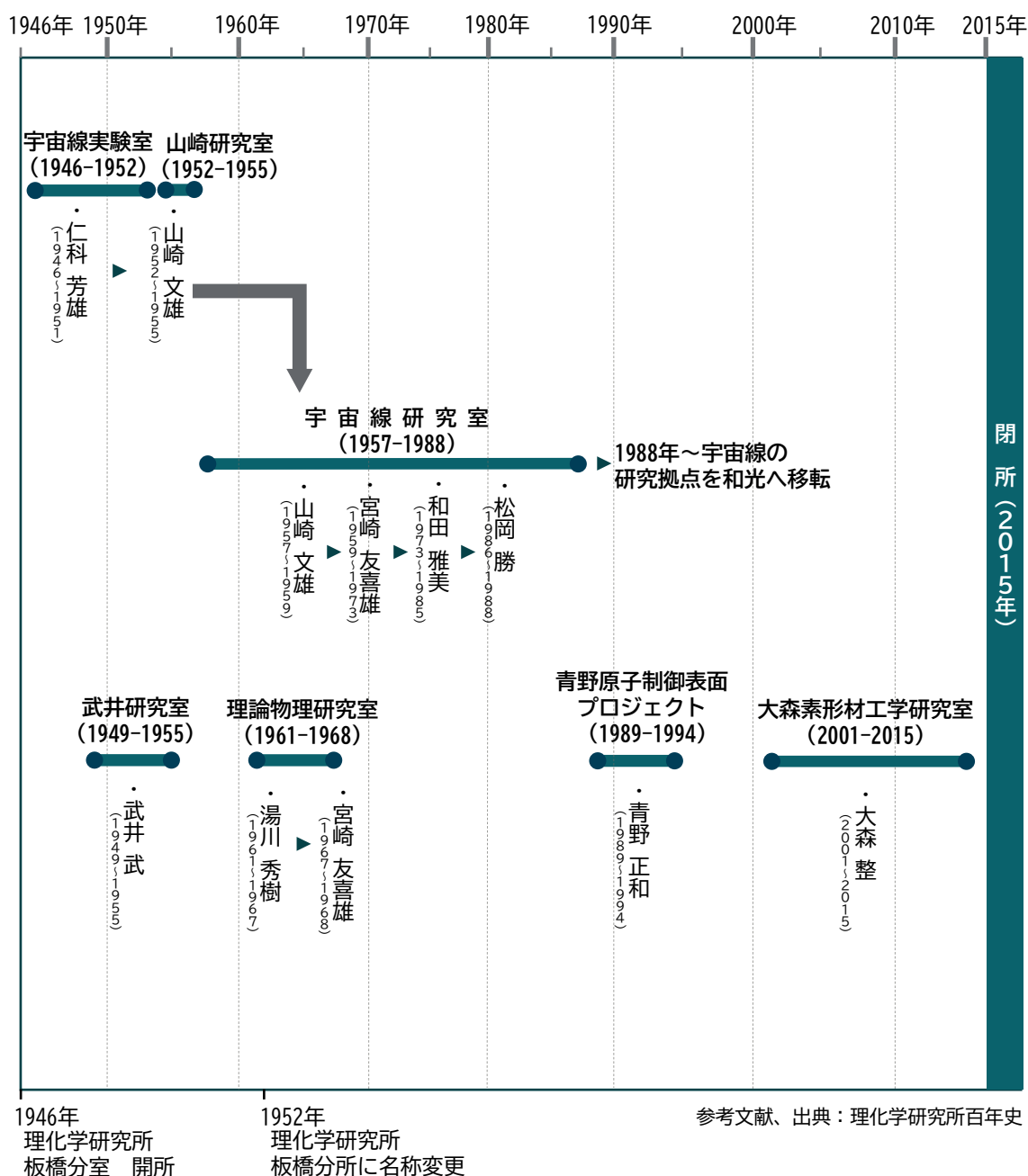
1961年、湯川秀樹を主任研究に迎え、「理論物理研究室」が発足しました。湯川は電子計算機を活用した新しい研究に強い関心を示し、当時としては国産機の中で最速・最大の記憶容量を誇る電子計算機を、理研で初めて導入しました。宇宙線データ解析をはじめとする当時の科学技術計算等に、大いに役立ちました。

ここで培われた大規模計算の研究ノウハウと技術が現在のフラッグシップ・スーパーコンピューター「富岳」と繋がっています。

● 大森 整（在籍期間：2001～2015年）ものづくりを根幹から支える技術革新

大森整は、ELID研削法（電解インプロセスドレッシング研削法）の発明者として著名です。これは、砥石の切れ味を電解で維持し、硬脆材料の超精密鏡面加工を可能にした画期的な技術です。1991年に理化学研究所に入所し、1998年には理研ベンチャーである新世代加工システム（株）が併設され、ELID研削法を中心とした多くの研究成果が生み出され、2001年には板橋分所に「素形材工学研究室」を設立しました。

2015年の板橋分所の閉鎖に伴い、板橋区舟渡に板橋分室を設け、和光市の研究室との2つの拠点にて研究を継続し、現在も多方面で活躍しています。



国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」一般公開イベント（令和7年10月4日実施）



内 容：「陸軍板橋火薬製造所跡」の自由見学
学芸員によるツアー、パネル展示

日 時：令和7年10月4日（土）
午前10時から午後4時まで

場 所：旧理化学研究所及び野口研究所
当日来訪者数：1300名

「近代化遺産全国一斉公開2025」（令和7年10-11月）の開催に合わせて、国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」を特別公開しました。当日は、雨天にも関わらず、区内外から1300名を超える多くの方々が訪れ、令和6年度実施時の700名から、1.8倍の来訪者数となりました。建物内では、学芸員によるツアーやパネル展示により、この地の歴史をご紹介した他、モスバーガーのキッチンカーが駆け付けるなど、イベントは大盛況で終了しました。

来訪者には、職員が積極的なコミュニケーションを図り、様々なご意見を伺いました。史跡公園や産業ミュージアムの整備にあたっては、今後も、こうした事業を多数展開し、整備に向けた機運醸成を図ってまいります。



参加された皆さんからのご意見

- ・近くに住んでいて、いつも石神井川沿いを散歩している。建物があることは知っていたが、何に使われている施設なのかわからなかったので知れて良かった。
- ・板橋区にこうした歴史的ストーリーがあったことを初めて知った。
- ・区外から来たが、昔の建造物がこんなにきれいに残っていることに感動した。
- ・ツアーでいろんな話が聞けて、区への関心が高まった。
- ・昔からある施設なので、うまく補修して価値が残るようにしてほしい。
- ・次世代の育成という整備趣旨に賛成する。未来に向けてより良く活用してほしい。

2 ソフト事業計画

(1) ソフト事業の展開に係る基本方針

基本構想で示した基本理念及びコンセプトに基づき、次の基本的な考え方に基づき、ソフト事業を展開していきます。

① 当地の歴史を背景とした事業展開

産業ミュージアムの整備地で重層的に織りなされた歴史を重要な”価値”と捉え、その歴史を背景としたソフト事業の展開を行います。特に、江戸時代から近年に至るまで、当地で永く行われてきた「研究」というキーワードに着目しながら、「産業の発展」、「人材の育成」につなげていきます。

② 日々研究・実験が行われ、進化・発展を続ける事業展開

展示やプログラムなどの事業は、オープン後も継続した研究や実験的な試みを行うことで、進化・発展を続ける事業展開を行います。展示の運営に従事する職員が来訪者と同じ目線で双方向的なコミュニケーションを図り、日々の展示研究に生かしていきます。

③ 多様な主体との共創により新たな価値が創造される事業展開

多種多様な研究が行われてきた歴史を持つ当地では、ひととひとがつながり、意見やアイデアが交わされることで、数々の価値が創造されてきました。産業ミュージアムでもその文化を引き継ぎながら、ソフト事業を通じて、地域や企業、大学や研究機関等の様々な主体がつながり、共創することで、新たな価値が創造される事業展開を行います。

④ 柔軟に運用が可能な事業展開

日々の研究や、ひととひとがつながることによって生まれたアイデアを反映させるためには、柔軟な運用による事業展開が重要となります。そのためには、常設の展示は必要最低限にとどめ、日々生まれ変わりがながら進化・発展を続ける可変的な展示を展開します。

⑤ デジタル技術を積極的に活用した事業展開

ソフト事業の展開にあたっては、AIやIoT等の最新技術を積極的に活用し、時代に即した運営手法となるよう検討を行います。また、展示資料等をデジタル・アーカイブ化することで、施設に直接来なくても区の産業の魅力を知ることができるサービスを提供します。

(2) ソフト事業の展開の方向性

前述のソフト事業の展開に係る基本方針に基づき、次の6つのテーマからソフト事業を行っていきます。

6つのテーマに基づく事業展開

テーマ1：ものづくり



区産業の発展の歴史を織り交ぜた企画展示や、技術と芸術を融合させたものづくりワークショップなどを実施します。この地が日本の工業や区産業の発展に影響を与えた歴史を持つことを伝えつつ、企業の魅力やものづくりの面白さを発信し、区の産業ブランドの向上とものづくり人材の育成を図っていきます。

テーマ2：まなび



旧板橋分所が使用していた建造物の構造や改変の歴史に着目しながら、理系人材の育成プログラムやアントレプレナーシップ教育等のプログラムを展開し、科学技術の進歩に貢献するためのトップ理系人材の育成につなげていきます。

テーマ3：ヒストリー



今もなお建造物内に残された火薬製造所時代の遺構や、宇宙線・基礎物理学の研究者たちの足跡など、この地の研究の歴史を継続して調査しながら、訪れるたびに新たな発見が与えられる産業遺産や旧板橋分所の研究者たちの展示事業を行っていきます。

テーマ4：実証実験



建造物内の独特の雰囲気を生かした企業や研究者の実証実験の場をつくります。来訪者が楽しみながら参加できるモニタリングなどを行うことで、地域や社会の課題解決に向けた新技術の開発や研究を前進させていきます。

テーマ5：コミュニティ



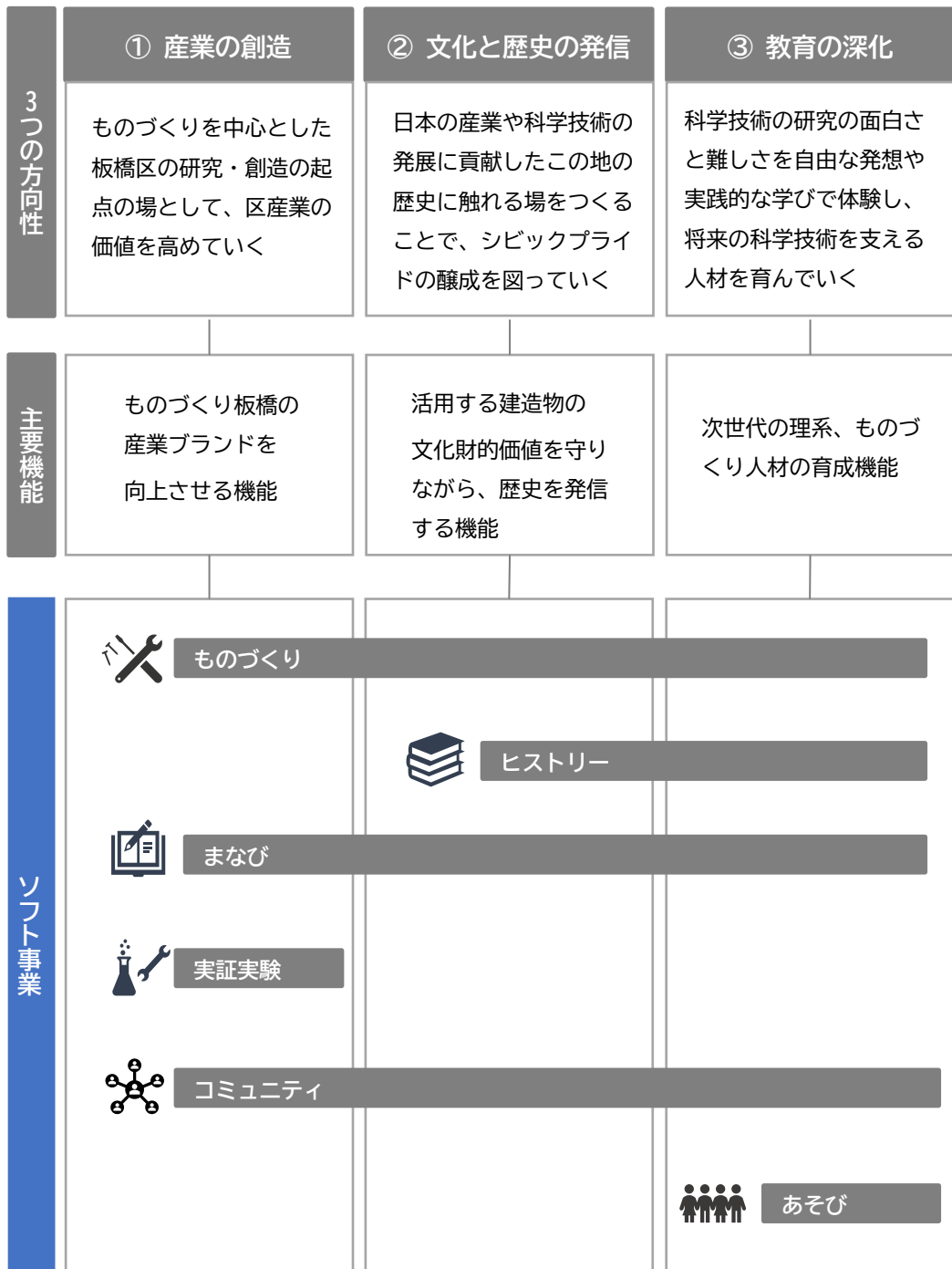
ひととひと、企業と企業、研究者や地域がつながることを目的として、まちづくりや地域課題解決につながる事業展開を行います。産業ミュージアムでの交流を生み出すことにより、まちづくりにおける社会課題の解決や、新たなイノベーションを後押しします。

テーマ6：あそび



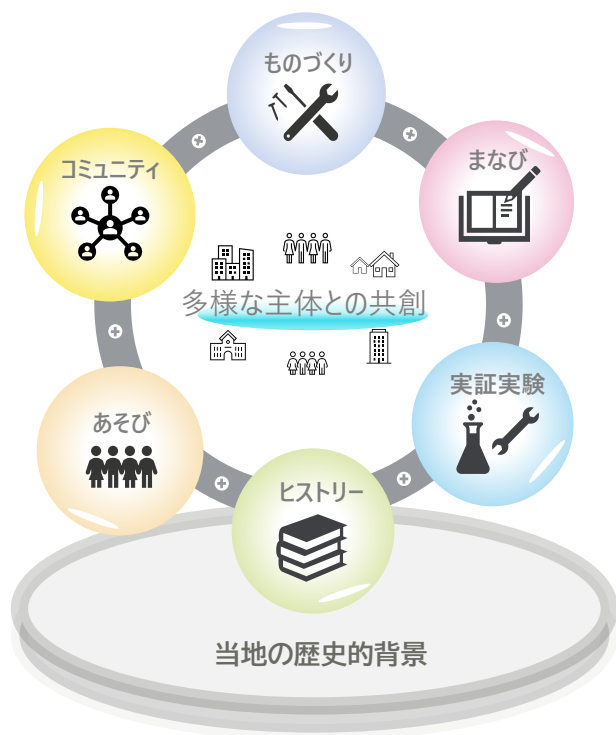
産業ミュージアムが公園内に立地するといった環境や特性を十分に生かしながら、遊びに対する研究や実験の要素を加えつつ、乳幼児連れ親子などが身近に知育体験ができる場所、児童の好奇心を育む場所を提供し、継続的な来訪者を生み出していきます。

(3) 基本構想における3つの方向性とソフト事業の関係性



(4) 事業展開のイメージ

6つのテーマに基づき、多様な主体との共創による事業展開を行うことで、基本コンセプトとして掲げる「創造と知の起点」として社会的価値を生み出し、生まれた価値を区内外へ拡げていきます。



ソフト事業の基本的な考え方

- ①歴史的背景の尊重
- ②研究・実験による展示の進化発展
- ③多様な主体との共創
- ④柔軟な事業展開
- ⑤デジタル技術の活用

① 産業の創造

② 文化と歴史の発信

③ 教育の深化

加賀の歴史に紡がれた、創造と知の起点としての役割を発揮する

- ・ これまで知られてこなかった加賀の歴史を学び、未来が創造される
- ・ 好奇心を呼び起こし、探求と研究のバトンを未来につないでいく
- ・ 「ひと」と「ひと」とのつながりが生み出され、新たな挑戦がはじまる

次世代の人材育成



産業ブランドの向上



区への愛着や誇りの醸成



産業ミュージアムを起点
として生まれた社会的価値を区内外へ拡げる

Creation and Knowledge

創造と知の起点として

多様な主体と共創し「社会的価値」を区内外へ拡げる

(5) 各事業の具体的内容

6つのテーマの具体的な内容は次のとおりです。なお、それぞれのテーマに紐づく事業展開のイメージについては、あくまでも本計画の策定時点で想定される事業例を示すものであり、今後も社会情勢の変化や時代の潮流に合わせて柔軟に見直すこととします。

①「ものづくり」をテーマとした事業展開



日本の産業と科学技術の進展に貢献した地で 区産業の技術に触れ、創造力を育む事業

区内企業との連携による企画展示の実施や、体験型ものづくりワークショップ、ファクトリーツアーを開催します。特にワークショップでは、創造性や表現力といったものづくりに不可欠な「アート思考」の要素を取り入れます。

区内産業の魅力を伝え、デザインやアートといった分野を横断したものづくりの面白さを発信することで、来訪者の創造性と探究心を育み、区の産業ブランドの向上と、未来のものづくり人材の育成を図っていきます。

事業の実施目的

- ・区の産業ブランドの向上
- ・ものづくり人材の育成

歴史的ストーリーや事業の実施背景

- ・江戸時代に加賀藩下屋敷が置かれたこの地に、明治政府が初の近代的な火薬製造所を設置したことが契機の1つとなり、その周辺の東京北西部には、光学兵器を製造する多数の軍需工場群が形成され、板橋区域の工業化の素地となりました。
- ・整備予定地は、板橋の近代的なものづくりの原点として日本の光学産業を象徴する区内志村周辺を形成させた歴史を有しており、区産業の軌跡を語る上では欠かすことができない貴重な場所となっています。



メインターゲット

- ・小中学生、保護者、
ものづくりに関心が高い区内外の住民



【事業の方向性1】クリエイティブラボ

工具、画材、3Dプリンターなどのデジタル機器等を自由に使えるように整備し、子どもたちが自由な発想で創作活動や探究活動に取り組める、クリエイティブ・ラーニングスペースを展開します。

また、創造性と自発性を促す空間デザインを目指します。機材を過度に配置せず、特定の用途を決め込みすぎないスペースを設け、子どもたちが使い方を自ら考え、空間自体を創作活動の一部にできる自由な空間にします。道具や素材は手の届くところに豊富に用意しつつも、それらをどう使うかは子どもたちに委ねます。思いがけない共創や新しい発想に出会うための偶発的な機会の創出を促します。

■ 事業例

調 整 中

【事業の方向性2】産業・ものづくり企画展示

探求心を育みながら、ものづくりの楽しさを体験できる企業等との連携による展示事業を行います。板橋区の特徴である光学産業や、印刷業をはじめとしたさまざまな業種と連携し、ものづくりの過程や、製品のプロダクトデザインの変遷の歴史など、ものづくりの魅力を来訪者に伝えていきます。

■ 事業例

調 整 中

イラストを挿入する予定です

②「まなび」をテーマとした事業展開



この地ならではの物理、科学の体験を通して、
楽しみながら学び、次世代の理系人材を育む
事業

理系人材の育成プログラムやアントレプレナーシップ教育等のプログラムを展開します。また、理系への関心が高い小中学生を対象に、ハイレベルな理系知識・探究機会を提供し、トップ理系人材の育成につなげていきます。

事業の実施目的

- ・理系人材の育成
- ・チャレンジマインドの育成

歴史的ストーリーや事業の実施背景

- ・戦後、陸軍省の廃止に伴って火薬製造所の稼働が終了し、その跡地には現在の公益財団法人野口研究所が入所したほか、理化学研究所「板橋分室（後の「板橋分所」）」が開設されました。
- ・特に板橋分室では、仁科芳雄が宇宙線研究を展開するとともに、湯川秀樹といったノーベル物理学賞受賞者が研究室を構える等、日本の先進的科学技術の研究拠点として研究成果が世界に発信されました。



メインターゲット

- ・小中学生、保護者



【事業の方向性1】物理・科学の不思議体験ワークショップ

子どもたちの好奇心を呼び起こす不思議な現象をワークショップや実験形式で体験しながら学び、探求する体験型事業を行います。物理・科学領域だけでなく、施設内の果樹・草花を生かし、生物・地学領域への関心喚起も展開していきます。

■ 事業例

調 整 中

【事業の方向性2】次世代の人材育成事業

理系人材を育成するセミナーや探究活動、企業・大学・研究機関・学会等の関係機関との連携事業を展開していきます。

■ 事業例

調 整 中

イラストを挿入する予定です

③「実証実験」をテーマとした事業展開



企業や大学・研究機関が連携して行う 実証実験の拠点としての事業

来訪者が楽しみながら参加できる参加型の実証実験の場をつくることで、企業や研究者の実証実験の場を提供し、地域や社会の課題を解決するための新技術や研究のモニタリング等を行います。

事業の実施目的

- ・産学公連携による新たな価値の創出
- ・区の産業ブランドの向上

歴史的ストーリーや事業の実施背景

- ・この地では、江戸時代の加賀藩下屋敷時代に博物学、園芸学、洋学の実践の場となったほか、火薬研究所時代には、火薬研究や実験が行われてきました。
- ・旧板橋分所時代には、宇宙線の連続観測や、基礎物理学の研究や実験が継続的に行われ、平成27年までの約70年間に渡り、国内外における物理科学の発展に貢献してきました。

写真を挿入する予定です

写真を挿入する予定です

メインターゲット

- ・小中学生、企業、大学・研究機関

【事業の方向性1】 新技術や新製品の実証実験体験

企業や大学の新技術や新製品の実証実験を展開することで、利用者が楽しみながら参加できる実験やモニタリングの場をつくります。

■ 事業例

調 整 中

【事業の方向性2】 子ども発明ラボ事業

「いたばし未来の発明王コンテスト」とのタイアップイベントを開催することで、子どもたちが楽しみながら独創的なアイデアを生み出す場をつくります。

■ 事業例

調 整 中

④「ヒストリー」をテーマとした事業展開



産業遺産を保存・展示するとともに、 区産業や当地の研究の歴史を発信する事業

建造物に残る火薬製造所時代の遺構や、宇宙線・基礎物理学の研究、また研究者たちについて施設利用者にわかりやすく伝えるための展示を行います。当地の歴史や区産業の歴史を継続して調査し、日々進化する展示を行います。

事業の実施目的

- ・旧板橋分所が使用していた建造物の歴史を発信
- ・シビックプライドの醸成

歴史的ストーリーや事業の実施背景

- ・当地の建造物には、火薬研究所時代から今なお引き継がれてきた建造物、電気軌道のレール跡や水中爆破実験に使われたとされる井戸、コンクリートアンカー等、史跡の本質的価値を構成する諸要素が当時のまま残されています。
- ・旧板橋分所時代には多くの研究者が物理学の研究を行ってきた場所であり、今なお区の学芸員によって、その歴史が紐解かれ続けています。



メインターゲット

- ・ 地域住民、歴史・遺構ファンや観光客

写真を挿入予定です

事業展開のイメージ

【事業の方向性1】遺構・建造物の展示

建造物の内外部において、軌道レール跡や井戸、爆破試験用コンクリートアンカー等の遺構や、建造物構造の改変理由や建具の解説等を展示します。

■ 事業例

調整中

【事業の方向性2】研究活動の軌跡の展示

宇宙線研究や基礎物理学の研究の歴史をはじめとした、旧板橋分所の研究者や研究成果を展示します。

■ 事業例

調整中

【事業の方向性3】歴史研究セミナー

旧板橋分所における研究の歴史や、近代産業史に関する継続的な研究と、セミナーや企画展等を実施します。

■ 事業例

調整中

史跡の本質的価値を構成する諸要素



⑤「あそび」をテーマとした事業展開



歴史的価値がある建造物内で、 子どもたちがのびのび遊べる事業

公園内に立地する特性を活かし、日常的に利用できる開かれた遊びの要素を提供することで、児童の好奇心を育む場をつくります。

さらに、STEAM教育の視点を取り入れた研究や実験の要素を組み込みます。こうした学びのある遊びを通じて、身近に知育体験ができる場所を提供し、親子や児童の交流を生み出します。特別な場所ではなく、日常的に立ち寄れる拠点とすることで、継続的な来訪者と地域への定着を図ります。

事業の実施目的

- ・遊びを通じた他の事業（ものづくり等）へのいざない
- ・継続的な来訪者の確保

歴史的ストーリーや事業の実施背景

- ・遊ぶことは、子どもの身体的、精神的な発達を促し、創造性や問題解決能力、注意力やコミュニケーション能力などを育みます。
- ・旧板橋分所時代にも、研究の息抜きや研究員同士の親睦を深めることを目的として、研究の合間に遊びの要素が取り入れられていた歴史があります。
- ・公園内に位置する施設といった特性を活かした遊びの場を提供することで、地域の愛着の向上とリピーターの定着につなげるとともに、発育や年齢に応じた他の事業へのいざないを行います。

メインターゲット

- ・ 幼児～小学生低学年、保護者

写真を挿入予定です



【事業の方向性1】乳幼児キッズスペース事業（知育研究の場）

親子で過ごせる乳幼児向けスペースを展開します。知育玩具・絵本など研究者・企業とコラボした知育研究の実証の場としての活用も検討します。

■ 事業例

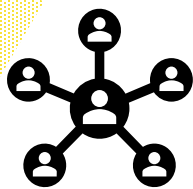
調 整 中

【事業の方向性2】遊びを軸にした体験展示

地域のボランティアが“遊びの案内人”となり、遊びを学びや発見へと導く低年齢向けの事業展開を行います。

■ 事業例

調 整 中



国史跡の空間で「ひと」と「ひと」が つながり、文化が生まれる事業

ひと・企業・研究者・地域が連携し、地域課題の解決や新たなまちづくりにつながる事業を展開します。これに加え、子どもたちが安心して過ごせる居場所を整備・提供することで、世代や立場を超えた新たな交流を生み出します。

産業ミュージアムを地域交流と国際交流の双方を担う多機能な交流拠点の一つとして活用することで、グローバルな視点を持った社会課題の解決や、地域全体の新たなイノベーションを後押しします。

事業の実施目的

- ・産業ミュージアムにおける地域の発展に向けたコミュニティの創出
- ・産学公連携による新たな価値の創出

歴史的ストーリーや事業の実施背景

- ・歴史的に研究が行われてきた当地では、ひととひとがつながり、意見やアイデアが交わされることで、数々の価値が創造されてきました。
- ・現代においてもその文化を引き継ぎ、ソフト事業を通じて、地域や企業、大学や研究機関などの様々なコミュニティがつながり、意見やアイデアを共有することで、新たな価値が創造される事業展開をめざします。

写真を挿入予定です

写真を挿入予定です

メインターゲット

- ・地域住民、企業、大学、研究機関

【事業の方向性1】コミュニティラウンジ事業

施設利用者が交流できるラウンジスペースでの施設企画・利用者企画による交流イベントを行います。区民・施設利用者・企業・大学等が集い、まちの発展につながるワークショップや、区内事業者同士、区内事業者と大学・研究機関の交流を創出するワークショップを行います。

■ 事業例

調 整 中

【事業の方向性2】コミュニティファーム事業

農を通じたコミュニティの醸成、企業・大学等と連携した食農に関する事業展開を行います。

■ 事業例

調 整 中

【事業の方向性3】加賀藩下屋敷を紐解く創造事業

当地が江戸時代に加賀藩前田家の下屋敷の一部であった地域特性を生かすため、下屋敷時代における当地の歴史・文化を掘り下げつつ、石川県金沢市や同市の企業、関係機関等との連携事業を展開していきます。

■ 事業例

3 施設計画

(1) 施設計画にかかる基本的な考え方

産業ミュージアムの整備は、旧板橋分所の建造物のうち、「爆薬理学試験室」と「物理試験室」を対象とし、施設計画にかかる基本的な考え方は次のとおりです。

◆ 施設計画にかかる基本的な考え方

歴史的な建造物の“保存”と次世代のための“活用”の両立

①歴史的な建造物 の“保存”

産業ミュージアムとして整備する本建造物は、加賀藩下屋敷の跡地に設置され、火薬の製造・研究を行う官営工場として稼働しました。昭和20年（1945）まで国内有数の火薬工場として稼働し、火薬研究所による最先端の研究は、戦後日本の科学技術の発展に大きな貢献を果たしました。

第二次世界大戦後、その跡地には理化学研究所が入居することになり、平成27年に閉所するまでの間、長きにわたり日本の物理、科学の最先端の研究が行われました。

平成29年10月には、こうした近代的な火薬製造所と研究所の歴史的価値が認められた結果、加賀一丁目7および8番の地域とそこに残された火薬製造所の遺構や建造物を含め、国の史跡に指定されました。

こうした国の史跡の構成要素である、本建造物の歴史的価値を保存するため、保存修復の改修を行い、安全性を担保するための耐震化を施したうえで来訪者に本建造物の歴史的価値を伝えていきます。

②産業ミュージアムとしての”活用”

歴史的なストーリーが重層的に重なる本建造物の歴史的価値を未来につなげていくため、新たな区民の集う場として生まれ変わらせます。前項のソフト事業を定期的に入れ替えることを想定して、固定的な展示ではなく、常に新しい気付きのある展示を目指していくものとし、様々な広さの自由度の高いスペースを準備します。また、可能な限りクローズドな空間は作らずに、来訪者が多くの部屋を訪れることが可能なオープンなスペース設計を検討します。なお、人が集いコミュニケーションが生まれる場として、動線や採光・必要な設備設置等を行い、居心地の良い空間設計を検討します。

歴史的な建造物の“保存”と次世代のための“活用”の両立

歴史を含めた建造物の“保存”

◆ 建造物全体の保存

本建造物は、史跡としての価値保存の観点から、当時の趣を維持しつつ、安全性を担保するための耐震化を施します。



物理試験室 外観



爆薬理学試験室 外観

◆ 歴史的価値のあるエリアの展示

本建造物の中でも特に歴史的な価値があるとされる箇所（電気軌道のトロッキール跡、宇宙線観測部屋等）は、産業ミュージアムでの展示に生かします



電気軌道のレール
（物理試験室内）



宇宙線観測機器が
設置されていた加温室
（物理試験室内）

産業ミュージアムとしての“活用”

◆ にぎわいを生む場としての空間設計

人が集いコミュニケーションが生まれる場として、動線や採光・必要な設備設置等を行い、居心地の良い空間設計を検討します。



室内の様子（物理試験室内）



◆ 必要設備の設置

ミュージアムとして具備すべき設備を設置します。

（例）受付、飲食機能、グッズショップ、お手洗い、バックヤード等

ミュージアムの
イメージ等を掲載

(2) 産業ミュージアムに必要な機能

産業ミュージアムに必要な機能を以下に整理します。なお、さらに詳細な機能要件については、令和8年度以降に実施する、建物内部のデザイン設計や動線の設計等の検討の中で、整理を行っていきます。

① コミュニケーター機能（学芸員・ボランティア）

展示解説や子どもたちの探求心を引き出す遊びへの誘導を行います。一方的な情報伝達に留まらず、双方向のコミュニケーションを大切にします。展示されている歴史やコンテンツの楽しみ方をわかりやすく解説し、来訪者の発見と体験を豊かにします。ひとと学び、ひとと体験をつなぐ架け橋としての役割を担います。

② 展示機能

本施設に係る歴史的な設備や資料の保存と未来への伝達を目的に、テーマや時代背景に沿って展示品を配置し、来訪者に歴史的事象の理解を促します。単なる陳列ではなく、教育、学び、交流などの目的を達成するために見せる展示を行います。

③ 生涯学習機能（体験・交流機能などのソフト事業）

ソフト事業の内容に応じて自由に空間を使用できるオープンスペースを設け、多様な活動が行える場を設置します。柔軟な空間構成により、ワークショップや実証実験、キッズスペースなど様々な活動に対応できる環境を提供します。

④ 物販機能

産業ミュージアムに係るグッズを販売し、普及、収益確保の役割を担います。グッズは施設に係る知識を自宅に持ち帰る媒体であり、日常生活での記憶の定着を促し、体験を拡張することに役立ちます。

⑤ 飲食機能

産業ミュージアムの施設内に飲食機能を設置することで、来訪者の休息や利便性を確保します。この機能により来訪者が気軽に立ち寄ることを想定しています。

⑥ その他共有機能

その他、必要な設備として、以下を想定しています。

- ・受付（来館者への案内、チケット販売、館内施設の説明、情報提供など）
- ・授乳室・おむつ交換代・給湯室
- ・トイレ（多機能トイレ・キッズトイレ含む）
- ・事務所、倉庫など

(3) 各諸室の活用イメージ

ソフト事業は、各諸室に残されたエピソードにも着目し、活用方法のイメージを膨らませていきます。

① 物理試験室



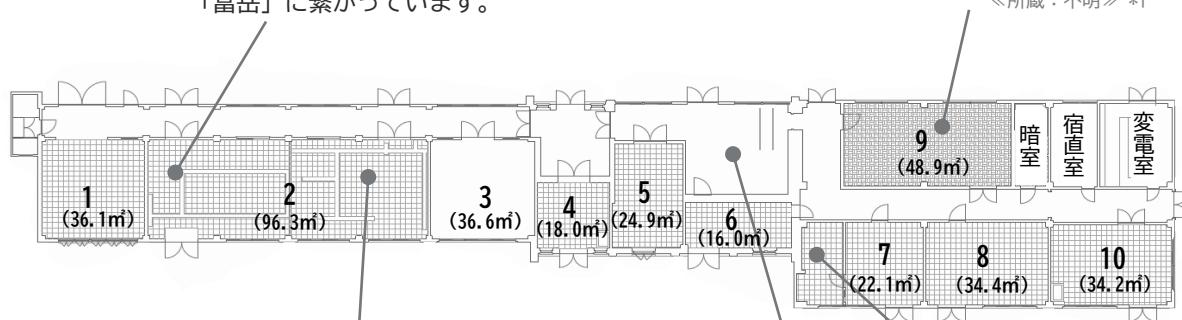
2号室：電子計算機室 1966年
Room 2: Computer Room

湯川秀樹の研究室では、当時としては最速・最大の記憶容量を誇る電子計算機を導入しました。ここで培われた大規模計算の研究ノウハウと技術が現在のスーパーコンピュータ「富岳」に繋がっています。



湯川秀樹と研究員たちがお寿司を囲んでくつろぐ様子。当時、この部屋はミーティングルームとして使用されていました。

《所蔵：不明》*1



宇宙線観測機器が設置されていた加温室

写真を挿入予定です

研究員たちが卓球をしている様子。仁科芳雄が欧州留学から持ち帰った、研究者たちが年齢や役職を超えて自由に討論と対話を行う“コペンハーゲン精神”が現代物理誕生の下地となりました。

写真を挿入予定です

仁科型電離箱で宇宙線強度の測定を行っていました。

現存する遺構や研究の足跡

歴史展示・ものづくり企画展示

当地の歴史および理研の研究者や研究成果、また、産業やものづくりについて学べる空間へ

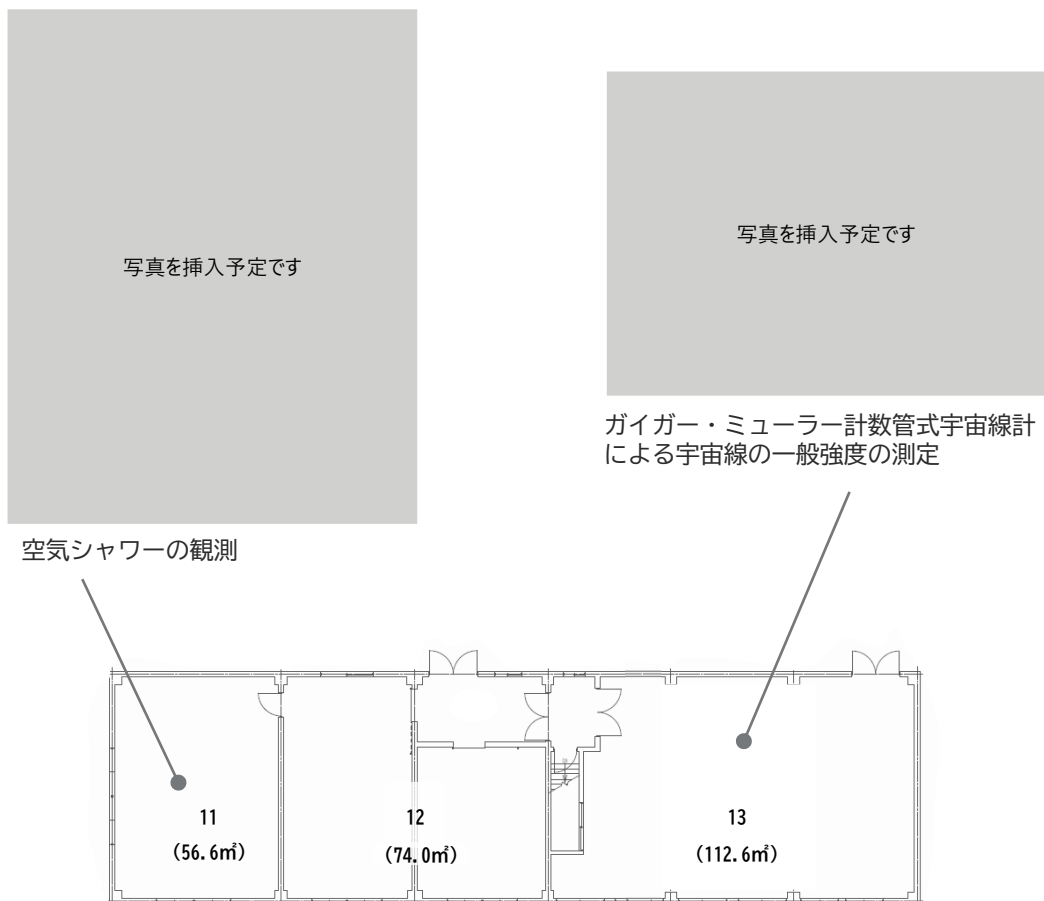
研究者たちが研究と議論を重ねた場所

ワークショップ・セミナーなど

次世代を担う子どもたちの探求心を育み、新しい発見と出会える空間へ

*1 本ページの公開に当たり、当画像の写真原本を所蔵する方を検索しましたが、確認することができませんでした。
お心当たりのある方は、板橋区産業振興課までお知らせください。

②爆薬理学試験室



江戸時代から息づいた「研究」の精神

実証実験の場

研究や実験が行われてきた場所で、
未来へ向けた新たな価値が創造される空間へ

理化学研究所の自由で
闊達な研究の雰囲気

憩いの空間

親子で過ごせる乳幼児向けスペース
など、子どもたちが遊びを通した学
びを得られる空間へ

4 多様な主体との連携による事業運営

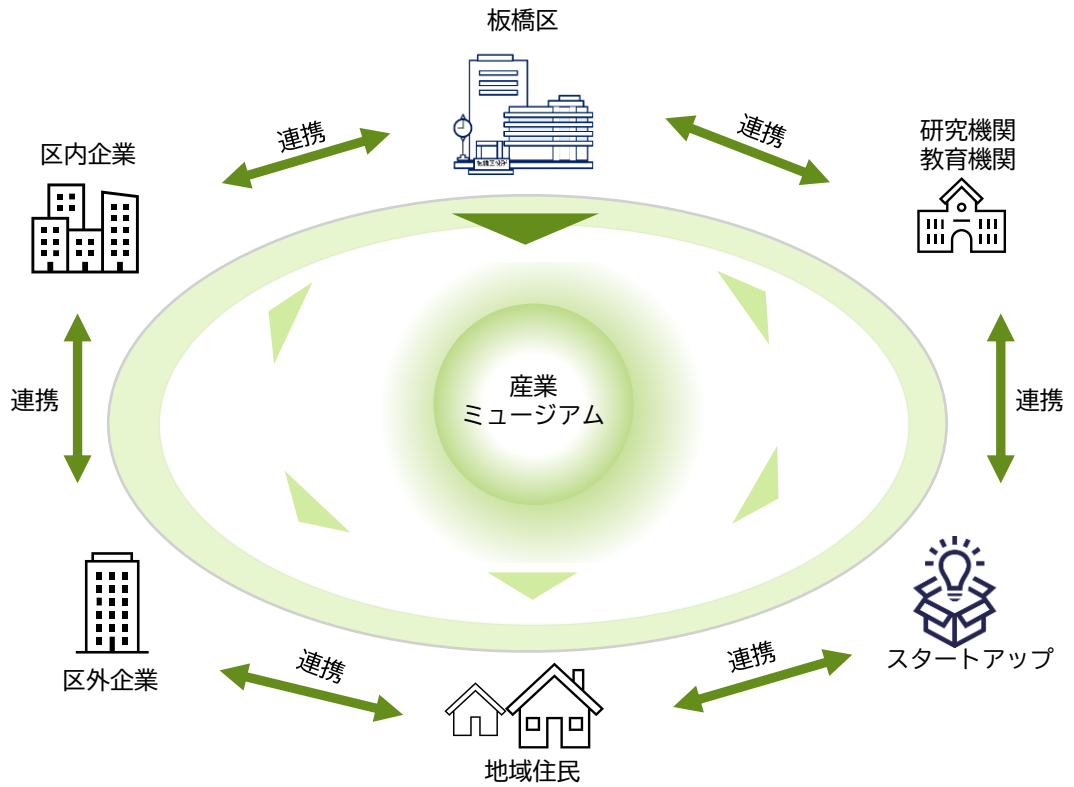
多種多様な研究が行われてきた歴史を持つ当地では、ひととひとがつながり、意見やアイデアが交わされることで、数々の価値が創造されてきた歴史があります。事業運営にも、その文化を引き継ぎ、産業ミュージアムを通じて、企業、大学や研究機関などの様々な主体がつながり、共創することで、新たな価値の創造を図っていきます。

また、加賀エリアをはじめとした近隣の地域や、小中学校、大学等との連携や、ボランティアによる運営への協力等、多様な主体との連携を通じて地域から愛される施設をめざしていきます。

なお、令和7年度から令和8年度かけて、史跡公園全体の運営にかかる民間事業者等へのサウンディング調査を実施し、多様な主体の意見を聴取する予定です。その結果を踏まえ、産業ミュージアムの管理運営主体や入場料などの取り扱いについて具体的な検討を進めていく予定です。検討にあたっては、史跡公園の整備予定地である3エリア全体（「現・加賀公園エリア」「旧・火薬製造所エリア」「旧・理化学研究所エリア」）で一体的に検討を進めていきます。

関係機関	役 割
板橋区	様々な関係機関等との連携を図りながら、産業ミュージアムを運営していく
研究機関・教育機関	展示・コンテンツの監修など学術的な知見を提供し、次世代の理系・ものづくり人材の育成に寄与していく
区内企業	地場産業の魅力を発信し、ものづくり板橋の産業ブランド向上につながる展示やイベント等に協力する
区外企業	板橋区に関連する理系テーマや最先端技術に係るテーマを中心に、展示・実証実験・イベントに協力する
スタートアップ	いたばし重点イノベーション分野のスタートアップを中心に、先端技術の社会実装を進め、イノベーションを創出する
地域住民	来館・イベント参加、地域活動との連携、施設周辺の環境維持等を通じて、産業ミュージアムを支援する

◆ 連携イメージ



5 オープンまでのスケジュール

令和7年度の本構想・計画策定後は、石神井川南側の「旧・火薬製造所エリア」に立地している建造物の整備と歩調を合わせながら、建物内部の整備デザイン検討、基本設計、実施設計、整備工事を進めていきます。

また、令和11年度の産業ミュージアムのオープンに向けた気運醸成を図るため、いたばし産業見本市等における区民・企業向けのイベントのほか、区ホームページやSNSを活用した情報発信にも取り組んでいく予定です。

	整備内容	整備の方向性
令和7年度	本構想・計画の策定	産業ミュージアムの基本理念・コンセプト・具体的な機能等を整理し、爆薬理学試験室と物理試験室の内部整備につなげていきます。
令和8年度	建物内部の整備デザイン検討	爆薬理学試験室と物理試験室の展示デザイン、動線、ゾーニング、施設サイン、諸設備（電気、機械、給排水等）などを検討し、基本設計と実施設計につなげていきます。
令和9年度	基本設計	爆薬理学試験室と物理試験室の基本設計を進めていきます。
令和10年度	実施設計	爆薬理学試験室と物理試験室の実施設計を進めていきます。
令和11年度	整備工事、史跡公園のグランドオープン	爆薬理学試験室と物理試験室の整備工事（耐震化を含む）を実施し、史跡公園とともに、産業ミュージアムがグランドオープンします。